

◆◆◆ 写真で見る平成30

「農協があって良かった」といわれる農協を確立

駅前スーパー内できらり農産物を販売

マックスバリュエクスプレス清水駅前店が4月6日にオープンし、「アンテナショップきらり」が取り扱う清水産農産物を販売するインショップや、直売コーナーが設置されました。



バラ切り花詰め「フラワーボックス」販売

市場外販売による生産者の農業所得向上と消費拡大のため、5月の母の日に合わせ、バラの切り花を小箱に詰めた「フラワーボックス」の試験販売をグリーンセンターで行いました。秋からは定番商品として、継続的に販売を行っています。



農産物PR トラック第5弾

「清水の農産物」キャラクターを描いたラッピングトラック第5弾が完成し、6月20日にJA本店駐車場で納車式を行いました。トラックは、(株)ジェイエイしみずサービスが新たに導入し、主に首都圏へ農産物や飲料を輸送。清水の農産物をPRしています。



伐採竹で手作りいかだレース
青壮年部は8月2日、放任竹林の竹で作った手作りいかだのレースを興津川で開きました。部員や家族、JA職員、行政など約70人が参加。放任竹林問題への啓発と、部員の親睦を兼ね、初めて開催しました。

エダマメ「ASIA GAP」取得

フジエス枝豆委員会GAP研究会は9月28日、国際的に通用する農業生産工程管理(GAP)のアジア版「ASIA GAP」を取得しました。新ブランド「手もぎ雅」が対象で、2020年の東京五輪・パラリンピックでの食材提供を視野に入れています。



将来のシェフ 折戸なす見学

折戸なす研究会は9月14日、学校法人鈴木学園中央調理製菓専門学校静岡校の生徒18人を畑に受け入れ、見学会を開きました。生徒たちはオリジナルの総菜を開発し、10月末から新静岡セノバで販売しました。



0年度の事業報告 ◆◆◆

するために組合員とともに歩んできました。

台風被害を資材回収などで支援
 9月30日の台風24号で被災した組合員のため、破損した資材を処分するコンテナを南部地域の営農拠点2カ所に設置し、ビニールハウスや温室ガラスなどの産廃物を無料で回収しました。また、合わせて金融対策などを用意し、支援しました。



ミカンキャラの塗り絵カード企画
 ミカンの消費拡大を目指して、地域の小学生を対象にした塗り絵「かんたくんチャレンジカード」の運用を11月下旬から始めました。完成した塗り絵をアンテナショップ「さらり」に持っていくとオリジナル景品が当たるなどの特典があり、好評でした。



南部でイチゴパッケージセンター稼働

イチゴ農家にとって負担の大きいバック詰めを請け追うパッケージセンターの本格的な運用を、南部集出荷場で12月中旬から始めました。



イチゴ少量ニーズに対応
 集出荷センターでは、1月下旬からイチゴ「さらび香」の少量パックの本格的な販売を始めました。1パックは130gで12〜15粒入り。家族構成の変化や食事シーンの変容で、少量商品が増えていることに対応しました。



県柑橘大会 朝倉さんら表彰

静岡県柑橘生産者大会が2月22日に開かれ、県貯蔵ミカン品評会と県中晩生柑橘品評会の入賞者が表彰されました。前柑橘委員長の朝倉克年さんは、県柑橘産業功労者賞、貯蔵ミカン品評会最高位の優秀賞（農林水産大臣賞）を受賞し、事例発表を行いました。



全中から優良農協表彰

3月8日に東京で開かれたJA全中通常総会で、2018年度の優良農協として、柴田篤郎組合長が表彰状を受け取りました。優良農協に選ばれたのは全国の7JA。大規模基盤整備事業の推進や、農業所得向上に向けた農産物PRなどの取り組みが評価されました。また当JAと姉妹提携を結ぶJA大北の山田高司組合長(写真中)が農業協同組合功労者表彰を受賞しました。